

ロックはメッセンジャー

外国語学部
英語英文学科3年

萩原 愛実

● 激しい≠ロック

しばしば「ロックは五月蠅くて苦手だ」と聞か
が、はたしてそうなのだろうか？ 最近、私が一
番に思う疑問だ。

確かに、ロックの歴史を紐解けば、アメリカの
若者たちによる社会への反旗が始まりであり、メ
タルやハードロックといった、所謂「激しい」ロッ
クは人気になったし、ロックの代名詞と言えるほ
どにもなった。「五月蠅い」と感じるのも分か
らなくもない。

だが、私に言わせてみれば、「ロックは人の数だ
け」ある。ロックの始まりは若者が世界に向けた
メッセージだったわけだが、ロックが果たす「メッ
センジャー」の役割は昔と何ら変わってはいない。
伝えたいものが違えば、自ずと音色も違うもの
になる。このことをまずなんとなく頭に置いて

らってほしい。

あなたが苦手と思うのは、あなたとウマの合
う「メッセンジャー」に出会えていない証拠。
これから、きつとあなたがまだ出会ったことが
ないであろう「メッセンジャー」達を紹介したい。

● 艶やかロック

まず、最初に紹介したいのは艶やかなメッセ
ンジャー、椿屋四重奏だ。「艶ロック」なサウン
ドを目指してきたのがこの椿屋なのだが、このよ
うなジャンルが確立されているわけではないので、
明確なボーダーラインはない。そのため説明し辛
いが、聴いてみて着物美人が振り返った時のよ
うな美しさを感じるなら、艶ロックと言ってもい
いだろう。要は、ロックでありながら和風の要素が
強く、上品であるのだ。

そんなバンド、椿屋四重奏は仙台からデ
ビュー。割とジャズっぽい曲調の曲や「大人の
恋愛・愛」を連想させる歌詞を特徴としている。
特に、ポーカーの中田裕二の歌声はセクシーだ
と呼び声が高い。

残念ながら、彼らはすでに解散してしまっ
て、新たな曲やライブを体感することはできな
いのだが、お洒落な曲を聴きたいと思ってる方・こ
のレビューで気になった方はCDを聴いてみる価
値は大いにあると思う。試しに聴いてみたい方は
『恋わずらい』と言う曲を試聴してみると彼らの
特徴が分かると思う。

● 文学的なロック

さて、音楽は楽器による演奏から感じるのもそ
うだが、歌詞から得る印象もとても大きい。メッ

セージ性の強いものも多いが、私は最近“文学的”だと呼ばれる類のロックにかなりはまっている。文学的だと言われるロック達の歌詞は小説の一遍のようになっていたり、とても抽象的だったりする。

その中でお勧めしたいのは、cinema staffだ。“POPで死ぬ！”という文句を掲げて活動していて、爽やかな曲調でも中盤でいきなり混沌とした空間を醸し出したり、のんびりと癒しを感じるボーカルが響いたかと思えば中盤でいきなり皆シャウトします。まさにハチャメチャなバンドであるが、そんな楽曲はまさに映画を見るような感覚に陥るかのようドラマチックでもある。そんな感覚に誘うのは楽曲だけではない。独特の歌詞も、彼らの曲の特徴である。

—勘違いの成れの果ては君とのさよならでした—

『GATE』 cinema staff

儂げなボーカルと共に吐き出される物語は、あなたの想像力を刺激すること必須だ。

ちなみに彼らの所属するレコード会社・残響レコードには、他にも文学的なバンドが沢山いる。People In The Boxは今、注目を浴びているバンドの一つだ。彼らは3ピースと言う最小編成のバン

ドだが、そうとは思えないほど音色が充実している。特に、変拍子は最大の特徴で、普通のロックではお目にかかれない11拍子が自分のリズムを崩しに来たかと思えば、次の瞬間には普通の4拍子が出迎え、油断した隙におかしな5拍子が顔をだす。彼らが一番にこだわるのは“世界感”だ。CD1枚を作るにあたり、きちんとテーマを設定し、物語を作り、一つ一つの曲を完成させるのではなく、1枚のCDでもって作品が完結するように徹底している。例えば、アルバム『Family Record』は世界の国々をテーマにしている『アメリカ』や『ベ

ルリン』と言った都市の名前が曲名になっている。更に、アルバム名の通り、国を旅するだけでなく、“家族”を連想させる歌詞がいたる曲に散りばめられていて、全ての曲を順番に聴いてやると納得できる作品になっている。

—洗面台で君が溺れた！— 『ストックホルム』

People In The Box

不思議な世界へ飛び立つなら、People In The Boxをお供にするといひ。

様々なバンドが上映する映画や語る物語。そんな不思議な世界へ飛び込むことの出来るロックもあるのだ。

● 何故か懐かしい

「激しくて五月蠅いのはめっちゃくちゃだからだ」と思っている方がいると思うが、音色やギターの種類、出力するスピーカーや録音状況、はたまたライブハウスの環境を考え、計算・調整したうえで“轟音”を奏でていることがほとんどだ。つまり、あの五月蠅さも何かのメッセージの一部であるのだ。

9mm Parabellum Bullet。私が好きでしようがないバンドの一つで、彼らは今、バンドシーンの中核を担っているといっても過言ではないくらい、絶好調なバンドだ。2011年の6月には横浜アリーナでのライブを成功させている。

自身達が言う“カオス”と言う間奏部分が存在し、何を鳴らしているのか分からない程の轟音を発しながら暴れる様が、彼らの代名詞とも言える特徴だ。しかし、ただ暴れ狂っているわけではない。先ほど書いたように、彼らは音色を調整して上で、建設するかのよう曲を組み立て、絶妙なところで轟音を取り入れるのだ。

“カオス”に関しては、このように、彼らを語る上で欠かせないが、もっと欠かせないと思うのは“昭和臭”だ。ギタリストである滝善充が繰り出す特徴的なギターソロはテトリスやファミコンといったなつかしのゲームの音だったり、昭和の

歌謡曲にありそうなメロディーラインをなぞって
いたりど、私達にとってはどこか古臭く思えるフ
レーズが盛り込まれている。しかし、悪く言えば
ダサイようなフレーズを、彼は絶妙なタイミ
ングでしかも絶妙な音色で繰り出してくるからカッ
コいいと感じる。ある意味、魔法使いだ。ちよ
つと古臭いのはギターソロだけじゃない。歌のメ
ロディーもどこか懐かしいような匂いを漂わせる。
逆にそれが新鮮に聴こえるから、このバンドは面
白い。

感覚的に感じるのも良いし、純粹に楽しんでも
面白いが、このバンドを聴くうえで、細かく注意
して、解体するように聴くのも面白さの一つのよ
うに思える。音楽に浸る聴き方とはこのことによ
うに思う。

● 様々な世界感

ここで長々と書いても、やっぱり聴かないと分
からない。ただ、ここで書きたいいくつかのバンド
は、それぞれのロック“を持っており、あなた達
が一番に思い浮かべるような「五月蠅い」ものを
ロックの一般とはしないことを分かっていただ
き。自分達の持つ世界を音楽に映す為、様々な
音や物語を散りばめているのだ。その一つ一つに
目を凝らしていくと、一口には語れない面白さで

溢れている、それがロックなんだと私は思う。

何が言いたいかと言うと、とにかく、「五月蠅い」
からと一くくりにして、聴かず終いにしないで欲
しい。この記事を見て、聴いてみてもらい、実は
ロックにも繊細な面のあるものもあつたりする、
凝らして聴けばただ「五月蠅い」だけではないと
感じていただければ幸いだ。

この広大なロックの世界で、またとないあなた
への「メッセージ」が見つかることを祈って。